

磯根重要魚介類の資源生態調査（キジハタ）

（浅海増殖試験）

石田健次

1. 研究目的

キジハタの種苗生産技術および放流技術開発の基礎資料とするために、生活史の解明などの調査を行なっている。本年度は仔稚魚の採集を目的として島根半島東部の沿岸域で稚魚ネットによる採集を試みた。

2. 研究方法

平成10年7月から9月の間（7月7、14、21、28日、8月5、18日、9月2、21、28日）に八東郡鹿島町から美保関町沖の水深15mから49mに10定点を設け、調査船「やそしま」を用いて日中に丸稚ネット（口径130cm、長さ450cm）で海底直上から海面までを傾斜曳きまたは鉛直曳きした。なお、8月5日までは定点1から5までを1.5から2.0ノットで傾斜曳き、それ以降は5定点増やして定点1から10で鉛直曳きを行った。採集された標本は実験室に持ち帰り約10%のホルマリン溶液で固定した後、シャーレに収容して採集物全てを生物顕微鏡で観察した。

3. 研究結果

調査はキジハタの産卵期（7月前後）¹⁾以降の7月から9月までの間、仔稚魚期の分布や生活史などを把握するため浅海域を延べ65回曳網した。その結果、キジハタ仔稚魚の入網は確認できなかった。

本種の生態については不明な点が多いが、仔稚魚は全長20 - 30mmで浮遊生活から底生生活に移行し、50mm程度まではあまり動かない²⁾とされ、食性からみると全長20~30cm位までは日中に活動し、本種とすみ場を同じくする岩礁地帯にみられる生物を捕食している³⁾。また、幼稚魚の採捕を目的にした調査でもキジハタは採集されていない^{4, 5, 6)}。このことから、今後は仔稚魚が多く棲息しているであろうと考えられる極浅海域の岩礁または起伏の多い海底での採集をいかにするかを検討する必要がある。

4. 文献

- 1) 石田健次：キジハタ生態調査。平成8年度島根水試事業報告、156 - 157 (1998)。
- 2) 水戸 敏・鶴川正雄・樋口正毅：キジハタの幼期。内海区水研報告、第25号、337 - 347 (1967)。
- 3) 玉木哲也：但馬沿岸におけるキジハタの食性および二・三の行動について。兵庫水試研報、第20号、29 - 32 (1981)。
- 4) 横田滝雄：幼稚魚の食性について。南海区水研報告、第14号、41 - 152 (1961)。
- 5) 千田哲資：隠岐近海に於ける魚卵・稚魚の出現について。日本生態学会誌、12、152 - 157 (1962)。
- 6) 大内 明・尾形哲男：北部日本海底曳禁漁区の動物分布に関する研究。日水研年報、6、157 - 171 (1960)。